

空き家バンク

活用者インタビュー

大阪より移住

にしこの
西廻潤一さん 秋香さん

令和3年の広報だいせん8月号の連載開始から、これまで空き家バンク制度についてご紹介してきました。実際にはどのような方が空き家バンクを利用されているか、その一例をご紹介します。



夫婦二人三脚で梨作りを行う。地元の大阪に自分たちが育てた大山の美味しい梨を紹介したいという思いもある。



サーフィンが共通の趣味の西廻さんご夫妻。思い切りサーフィンを楽しめる暮らしがしたいと、数年サーフィンをしに通っていた大山町に移住を考えていました。

空き家バンク制度を利用して、一年ほど町内の空き家を探し、現在の住まいが見つかったことで大山町に住むことに。

移住後に、潤一さんが梨の選果場



梨づくりの師匠の井上勇辰さん（右）、一緒にゆうたつ農園で働く前田貴大さん（左）。

のお手伝いに行ったことをきっかけに興味をもち、梨農家の道へ。未経験から梨を始めることを周囲に話すと、心配する方もいましたが、潤一さんは「おいしい梨が地域にあることはすばらしい。この梨を作る人が減っているのであれば、自分がやってみよう。」と、一から農業を学びはじめました。

そしてこの春、梨農家として独立。「聞いた通り大変な仕事だった。でも大変だからこそやりがいがある。たくさんの人に

助けてもらっている。」と潤一さんが話してくれました。

秋香さんは、移住前の仕事の経験を活かし、大山のカフェでも働いています。カフェの地産食材を使ったメニューの開発は秋香さんによるものです。

「家が見つかったから大山町に住めた。」と話す西廻さん。このように空き家バンクの利用によって新しい人材が大山町に加わりました。空き家の活用は「まち」に活力を生み出す可能性を持っています。空き家バンクの登録にご協力をお願いします。

問 企画課

08559-54-5202



秋香さんの作ったメニューが人気商品に。